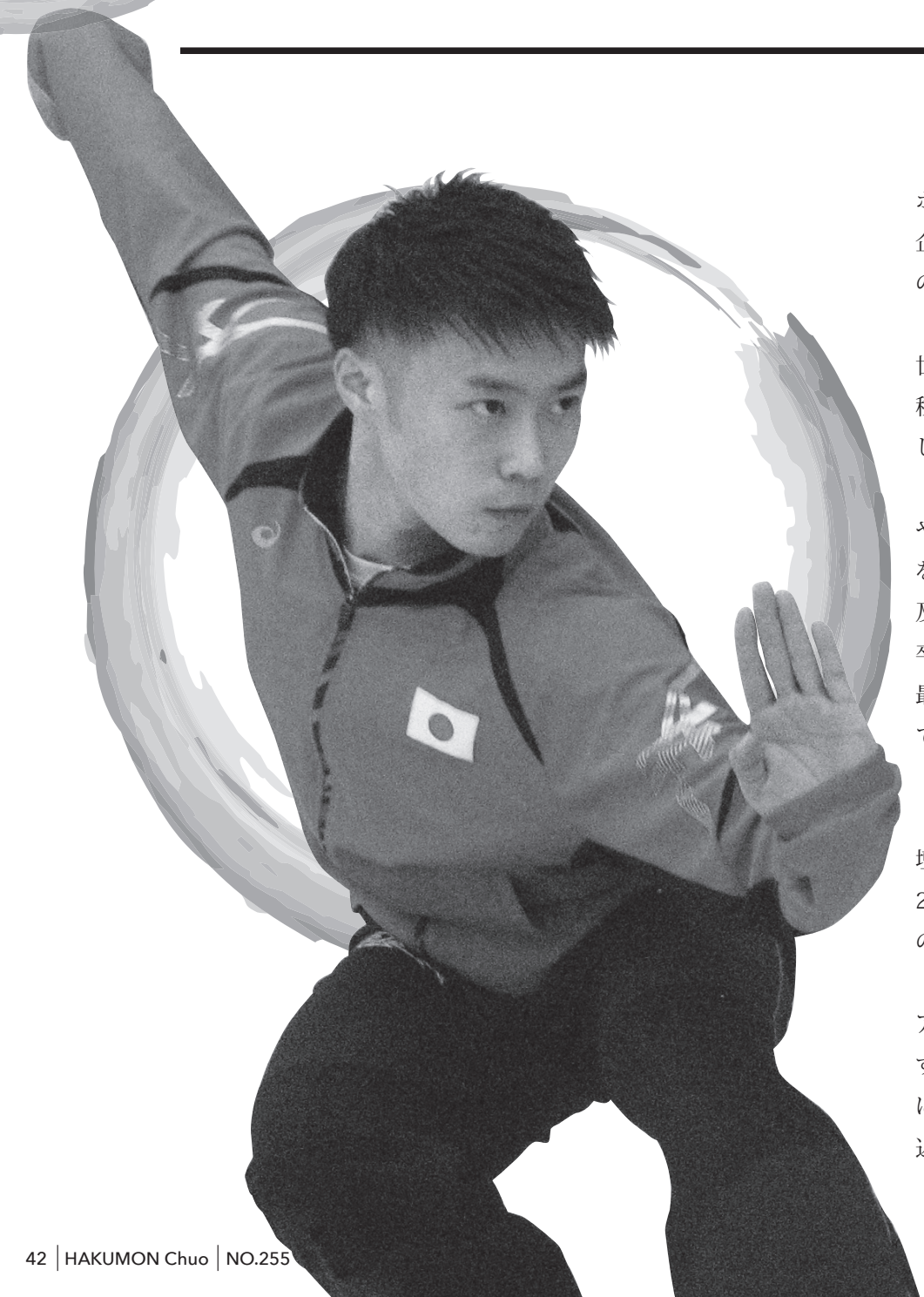
武術太極拳の世界王 演武で見せ

中央大学ＯＢで武術太極拳の世界チャンピオン、大川智矢氏 が

「2020年東京五輪・パラリンピックを見据えて何ができるか」



中大保健体育研究所が公開シンポジウムとして主催。同研究所が企画した文学部、「体育・教育演習」の授業とのコラボ企画でもあった。

大川氏は中大３年次の2013年世界武術太極拳選手権覇者。「剣術」種目で日本人初の金メダルを獲得した。

現在は選手のほか、テレビＣＭやファッションショーなどで演武を紹介するなど多方面で競技の普及活動をしている。2016年の中大卒業式（多摩キャンパス）では史上最年少ともいわれた若きＯＢとして、卒業生に贈る言葉を述べた。

日の丸を付けたジャージで登壇。競技内容や採点方法を説明し、2024年パリ五輪へ正式競技としての参加を訴えている、と力説した。

武術太極拳の競技性を「フィギュアスケートとほぼ一緒だと思います。人目をひくという点では最高におもしろいです」と言葉に力を込めた。

者、大川智矢氏
たシンポジウム

1月19日、多摩キャンパスで

と題した総合討論と演武を披露した。

2016年 夏号表紙

競技が世界基準となるには、発祥国がどの国が分からないほど普及することが望ましいとも話した。国際武術連盟（本部＝スイス・ローザンヌ）の加盟国・地域は194。サッカーの208カ国・地域に追いつこうとしている。

初めて見る人も

「ナマで見る機会がまだ少ないかと思います」として、会場内でスタッフらと共に演武の一部を披露した。なかには刀や棒を使う種目もあった。

大川氏によると、演武には「起承転結」が必要で、静から動へ、動から静へ。高いジャンプを織り交ぜた多様な技を展開する。中大４年で昨夏のユニバーシアード（台湾）代表の村上僚選手も演武を披露した。

場内からは「初めて見た、素晴らしいです」（女性）、「振り付けの人はいますか？　どんなトレーニングをしていますか？」（男性）などの感想や質問があった。

振り付けは選手が独自で考えているようで、演武中の表情も得点対象となる。

練習では体幹を鍛え、ジャンプからの着地に耐えられる筋力トレーニングなどに励んでいるという。

武術太極拳の特徴は①伝統の継承②競技者③愛好者（生涯スポーツ）の三者が一体となっていることで、愛好者が競技者の海外遠征や強化に向けて寄付をしている様子も紹介された。

種目は多く、素手のほか剣、刀、棒、やりなどを使う。世界選手権やアジア選手権では、太極拳、太極剣、南拳、南刀、南棍、長拳、剣術、刀術、槍術、棍術などの各種目で争われる。

国内の競技者は約７万人、愛好者は健康志向の高まりにより100万人を超すと言われている。大川氏は競技と普及の最先端に立っている。

村上選手